

109 オバエボシガイ

(イシガイ科)

兵庫県ランク:A

Inversidens brandti

環境省ランク:VU

種の概要

東海地方・富山県以西の本州と九州に分布し、主に河川と連絡する水路などに生息するが、東海や近畿の河川では絶滅が危ぶまれている。殻長30~40mm程度。外観は前後に短い歪んだ台形をし、後背部はやや張り出し、殻頂周辺には弱い漣状彫刻を有する。右殻の擬主歯は、短いへら状となる。殻の内面は橙色を帯びることが少なくない。琵琶湖水系産には円みのある型(オリエボシ)が分布する。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
○	○		△	△	○		○

県内分布

三田市、小野市、篠山市

県内における生息状況及びその他特記事項

ランク変更なし。武庫川と加古川水系水路の2水系で確認されているが、いずれも既知産地や生息数は群を抜いて少なく、加古川水系の既知産地では絶滅したと考えられ、武庫川も他種の激減とともに絶滅の可能性が高い。

保護上の留意点

既知産地では絶滅状況であり、保護対策を講じられていないが、今後確認されることも見越し、小川環境の保全、流れの緩やかで砂泥が堆積し、本川と連絡し、季節的水量の変動のある水路や小川、支流を維持・復活させることで、既知産地あるいは別産地での再生産が助長されると考えられる。



写真提供：増田修



写真提供：増田修

【執筆者】 増田修